

## I. 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算概要



執行役員 財務部長  
井出 和史

東海旅客鉄道株式会社  
2024年10月30日

# 比較第2四半期（中間期）損益計算書【連結】

(単位 億円、%)

	令和5年度 累計	令和6年度 累計	増減	前期比	主な増減要因
<b>営業収益</b>	<b>8,175</b>	<b>8,738</b>	<b>563</b>	<b>106.9</b>	
運輸業	6,662	7,136	474	107.1	運輸収入の増
流通業	738	784	46	106.2	百貨店・駅店舗の売上の増
不動産業	245	253	8	103.4	駅商業施設の賃料収入の増
その他	530	564	34	106.5	鉄道車両等製造業・ホテル業の売上の増
<b>営業費</b>	<b>5,054</b>	<b>5,086</b>	<b>32</b>	<b>100.6</b>	
<b>営業利益</b>	<b>3,120</b>	<b>3,652</b>	<b>531</b>	<b>117.0</b>	
<b>営業外損益</b>	<b>△ 334</b>	<b>△ 297</b>	<b>37</b>	<b>88.9</b>	
営業外収益	78	109	30	138.6	運用利息
営業外費用	413	406	△ 6	98.4	
<b>経常利益</b>	<b>2,786</b>	<b>3,354</b>	<b>568</b>	<b>120.4</b>	
特別損益	△ 6	△ 11	△ 4	173.5	
<b>税金等調整前中間純利益</b>	<b>2,779</b>	<b>3,343</b>	<b>563</b>	<b>120.3</b>	
法人税等	814	983	168	120.7	
<b>中間純利益</b>	<b>1,965</b>	<b>2,360</b>	<b>394</b>	<b>120.1</b>	
非支配株主に帰属する 中間純利益	14	23	9	163.3	
<b>親会社株主に帰属する 中間純利益</b>	<b>1,950</b>	<b>2,336</b>	<b>385</b>	<b>119.8</b>	

(注) 営業収益の内訳は、セグメント別の外部顧客への売上高

# 比較第2四半期（中間期）損益計算書【単体】

(単位 億円、%)

	令和5年度 累計	令和6年度 累計	増減	前期比	主な増減要因
<b>営業収益</b>	<b>6,763</b>	<b>7,240</b>	<b>477</b>	<b>107.1</b>	
うち運輸収入	6,407	6,864	456	107.1	新幹線+426、在来線+30 (参考)平成30年度比 99.0%
<b>営業費</b>	<b>3,825</b>	<b>3,789</b>	<b>△ 35</b>	<b>99.1</b>	
人件費	883	883	0	100.1	ベースアップによる増、退職給付費用の減
物件費	1,744	1,759	14	100.8	
動力費	302	278	△ 23	92.1	電力単価の減
修繕費	554	578	23	104.3	新幹線電気修繕・新幹線車両修繕の増
業務費	888	902	14	101.6	委託費・広告宣伝費の増
租税公課	211	220	9	104.3	
減価償却費	986	926	△ 60	93.9	新幹線車両
<b>営業利益</b>	<b>2,937</b>	<b>3,450</b>	<b>513</b>	<b>117.5</b>	
営業外損益	△ 337	△ 305	32	90.5	
営業外収益	78	106	28	136.4	運用利息
営業外費用	416	412	△ 3	99.1	
<b>経常利益</b>	<b>2,599</b>	<b>3,145</b>	<b>545</b>	<b>121.0</b>	
特別損益	1	0	△ 0	75.0	
<b>税引前中間純利益</b>	<b>2,600</b>	<b>3,145</b>	<b>545</b>	<b>121.0</b>	
法人税等	761	924	163	121.4	
<b>中間純利益</b>	<b>1,839</b>	<b>2,221</b>	<b>382</b>	<b>120.8</b>	

- Ⅱ．足元の状況
- Ⅲ．2025年3月期 業績予想
- Ⅳ．主な施策展開
- Ⅴ．中央新幹線計画の状況



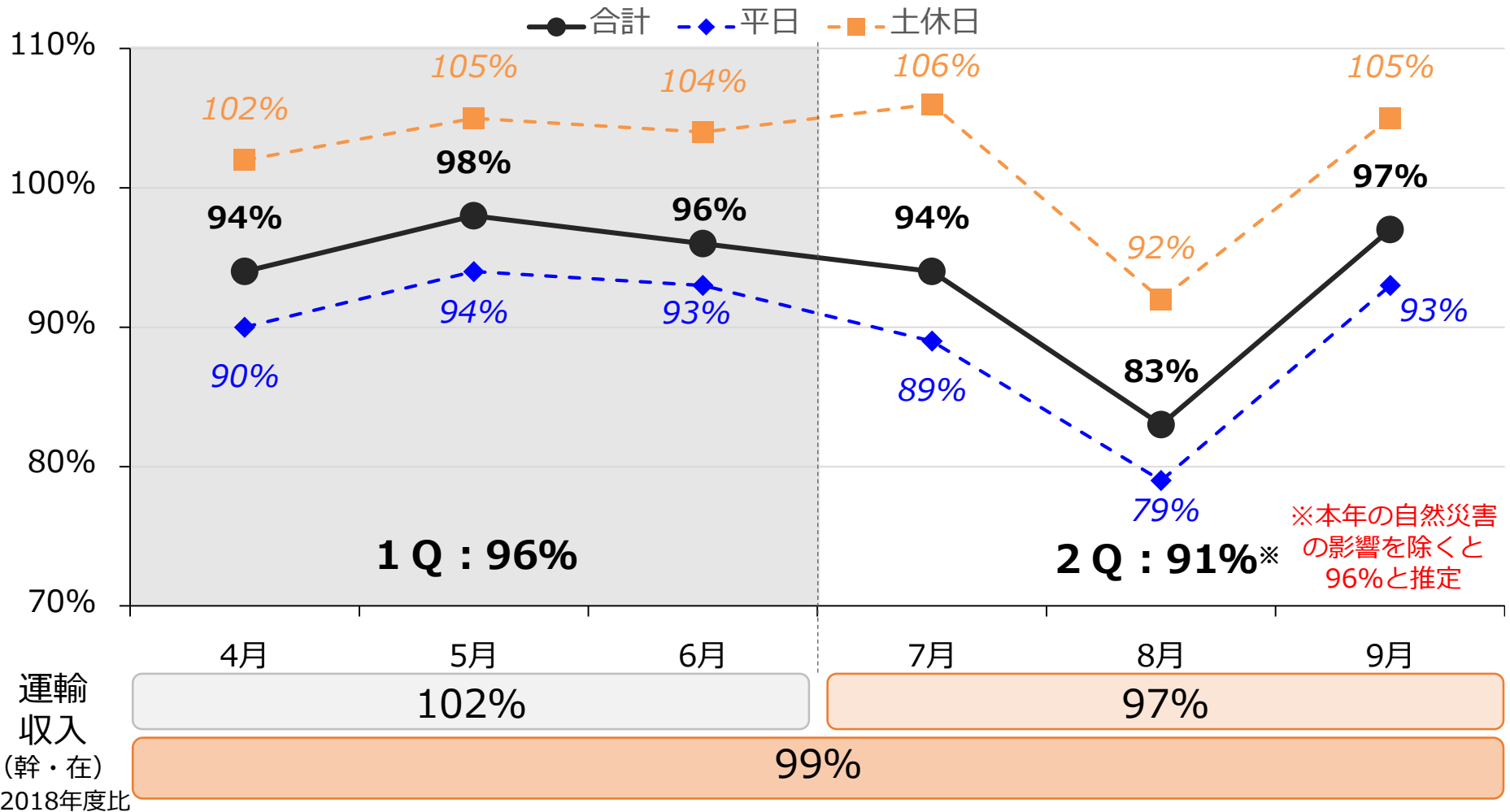
代表取締役副社長  
武田 健太郎

東海旅客鉄道株式会社  
2024年10月30日



# 東海道新幹線のご利用状況と運輸収入

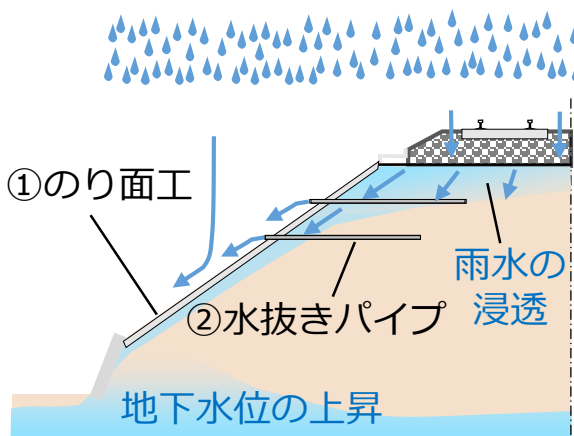
## ■ 東海道新幹線のご利用状況（東京口、2018年度比）



○ 第2四半期も引き続き、ご利用の全体のトレンドは回復基調

○ 上期の運輸収入は、業績予想を137億円上回る

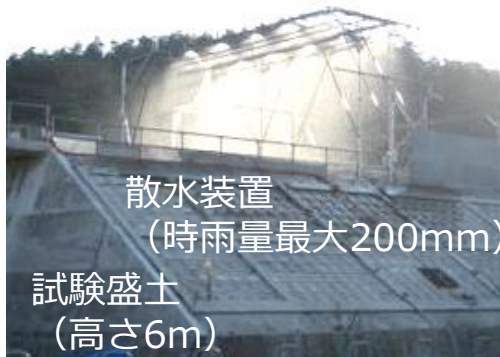
## ■ これまでの降雨対策



- ① 表面の遮水・浸食の防止  
⇒ のり面工
- ② 盛土内水分の排水促進  
⇒ 水抜きパイプ

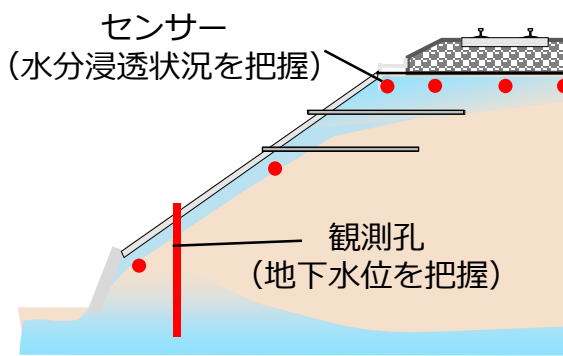
発生地や降雨時間の予測が難しい激しい降雨の増加

## ■ 小牧研究施設の試験盛土における豪雨再現試験 (2022年～)



散水装置により様々な雨を再現  
↓  
昨今の激しい豪雨に対しても  
これまでの降雨対策が、  
有効であることを検証し、  
これまでのところ良好な結果

## ■ 東海道新幹線の営業線盛土におけるモニタリング (2024年～)



実際の営業線の盛土にて降  
雨時における水の分布を把  
握し、盛土の性能を評価

↓  
対策工法を選定し、  
その効果を確認

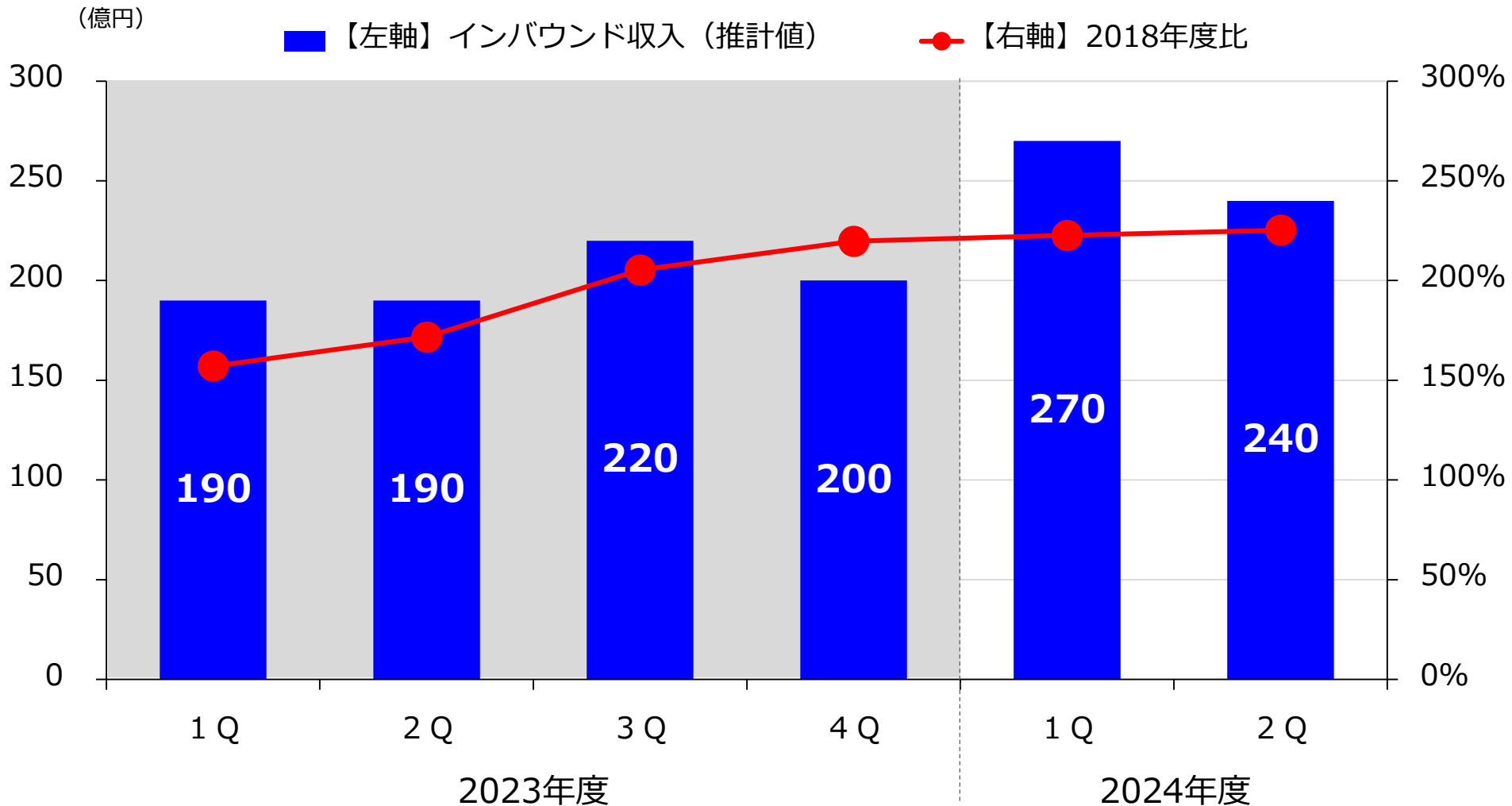
↓  
対策の実現により、更に安全性を向上させ、  
豪雨時における最適な運転規制に繋げていく

- 安全を最優先に、より安定した輸送サービスを提供できるように注力
- 自然災害の激甚化への対策を講じて、収益の確保を図る

# インバウンドの状況

○ 上期のインバウンド収入（推計値）は約520億円（2018年度比：約2.2倍）

※インバウンド収入（推計値）は10億円未満切捨



# 通期の業績予想【連結・単体】、配当

## ■ 損益計算書

(単位 億円、%)

	令和5年度 (実績) A	令和6年度 (前回予想) B	令和6年度 (今回予想) C	対前回予想		対前年実績	
				増減 C-B	比率 C/B	増減 C-A	比率 C/A
<b>【連結】</b>							
営業収益	17,104	17,400	17,620	220	101.3	515	103.0
営業費	11,030	11,320	11,380	60	100.5	349	103.2
営業利益	6,073	6,080	6,240	160	102.6	166	102.7
経常利益	5,469	5,450	5,630	180	103.3	160	102.9
親会社株主に帰属する当期純利益	3,844	3,810	3,920	110	102.9	75	102.0
<b>【単体】</b>							
営業収益	14,173	14,430	14,560	130	100.9	386	102.7
うち運輸収入	13,428	13,690	13,820	130	100.9	391	102.9
営業費	8,510	8,700	8,700	-	100.0	189	102.2
人件費	1,722	1,750	1,760	10	100.6	37	102.2
物件費	4,335	4,590	4,570	△ 20	99.6	234	105.4
動力費	558	600	590	△ 10	98.3	31	105.6
修繕費	1,813	1,900	1,900	-	100.0	86	104.8
業務費	1,962	2,090	2,080	△ 10	99.5	117	106.0
租税公課	437	430	440	10	102.3	2	100.5
減価償却費	2,015	1,930	1,930	-	100.0	△ 85	95.8
営業利益	5,663	5,730	5,860	130	102.3	196	103.5
経常利益	5,045	5,090	5,240	150	102.9	194	103.8
当期純利益	3,587	3,600	3,700	100	102.8	112	103.1

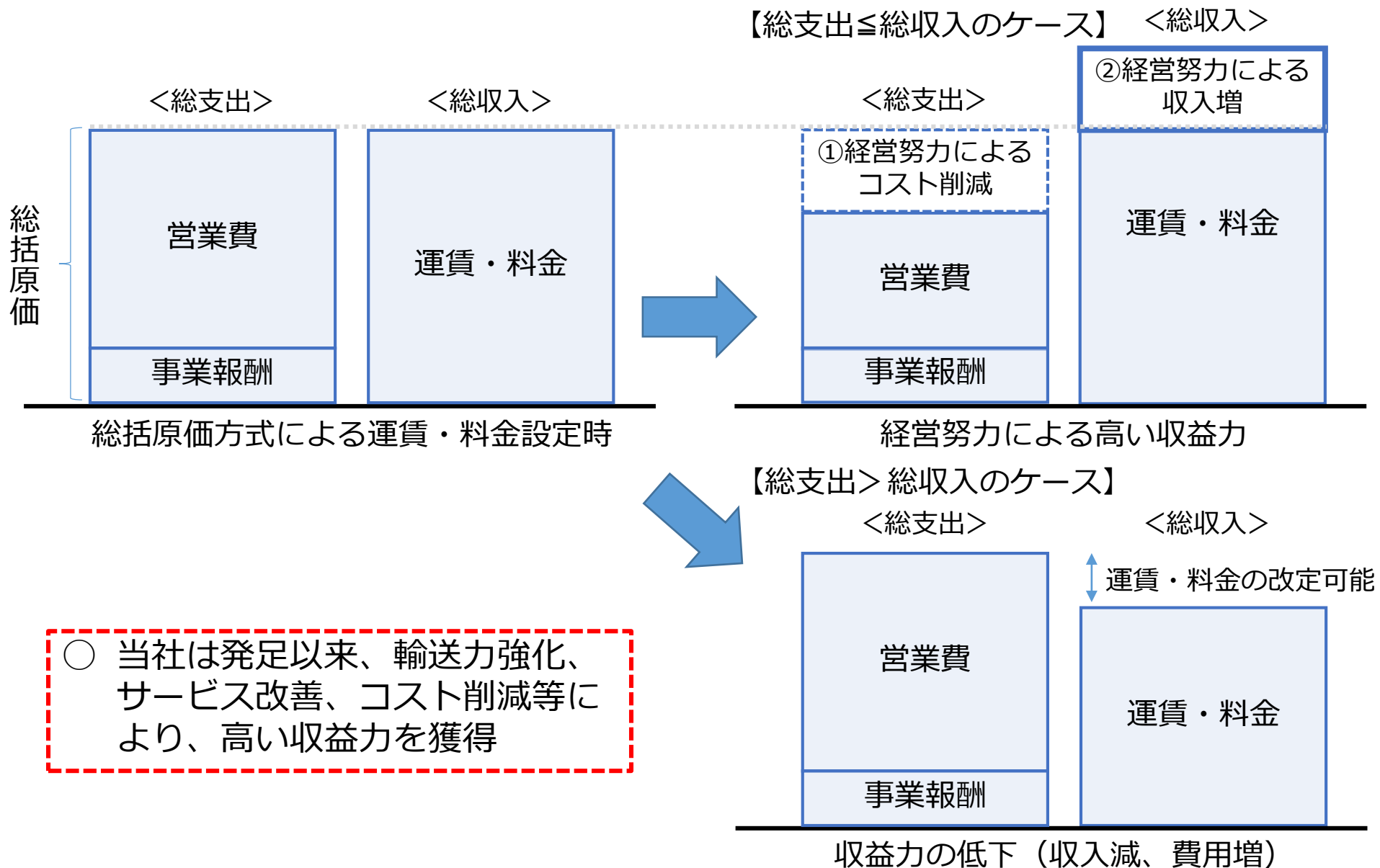
## ■ 配当

安定配当を継続。中間配当は前回予想通り、期末配当予想は変更なし。

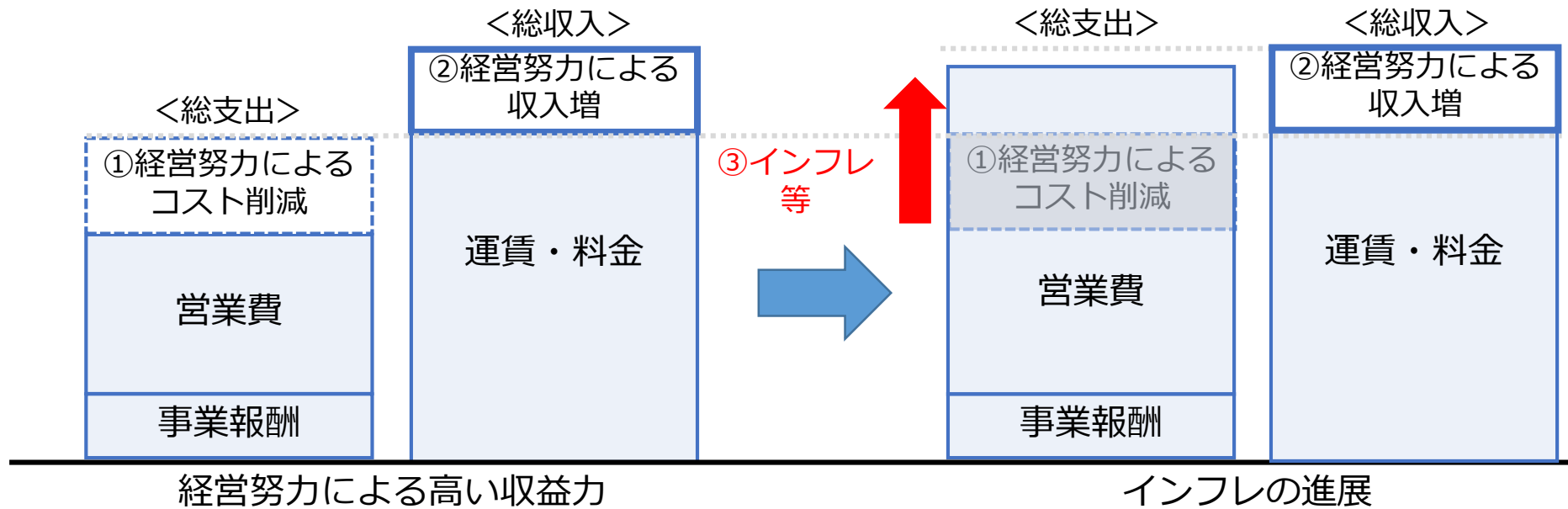


# 運賃・料金規制と当社の対応①

## ■ 総括原価方式による運賃・料金設定とその後の経営努力（イメージ）



## ■ インフレが進展（イメージ）



- 外部要因であるインフレによって、経営努力の成果が侵食される
- インフレ下でも、以下が満たされない限り、運賃・料金の上限額の改定ができない  
インフレ等によるコスト増（③） > 経営努力によるコスト削減・収入増（①+②）

## ■ 当社の対応

- 収益の拡大と業務改革によって更なる収益力強化を図りつつ、以下により対応

### 当面の対応

届出で改定可能な料金（G料金、座席指定料金、上限額内の割引額等）により、インフレ影響への対応が可能

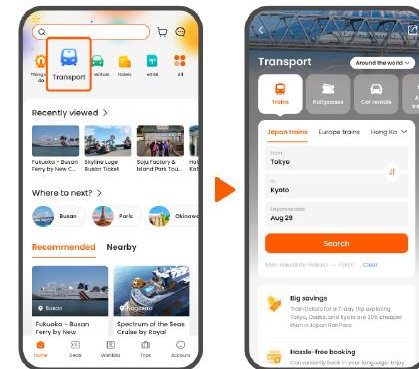
### 抜本的対応

総括原価方式の弱点を改善するため、インフレによるコスト増を柔軟に価格転嫁できる制度導入を粘り強く要望

## ■ 旅行会社との連携強化によるインバウンド需要の取り込み



「Klook」との連携



## ■ メジャーコンテンツとの連携



アニメ ジョジョの奇妙な冒険

## ■ 「会いにいこう」キャンペーンの展開

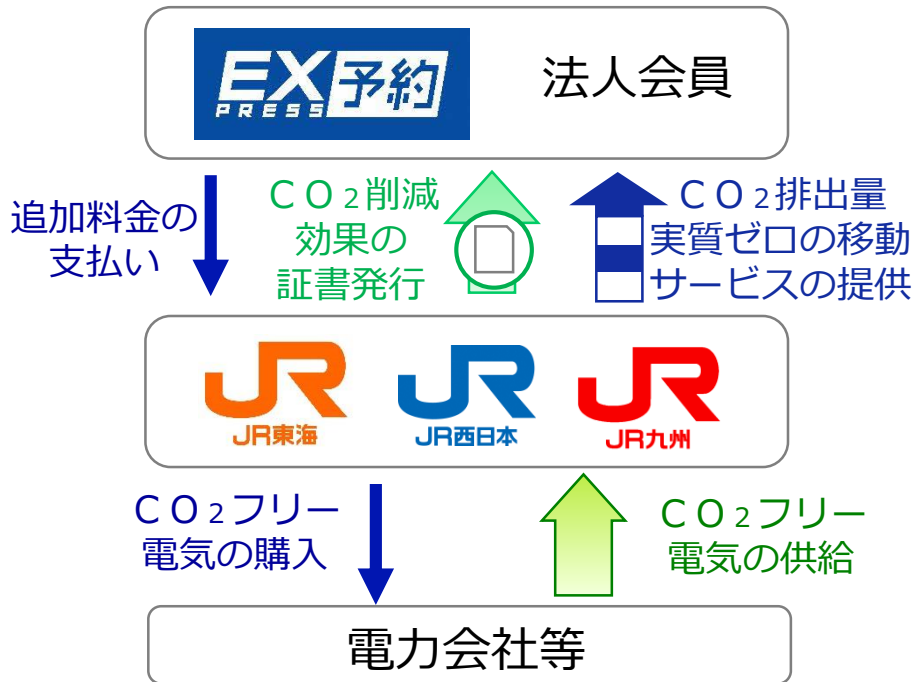


遠距離・婚活応援キャンペーン

○ ターゲットに合わせ、様々な切り口から需要創出策を展開していく

## ■ 東海道・山陽・九州新幹線におけるCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロ化のサービス

- 「エクスプレス予約」法人会員に対して、新幹線での移動に伴うCO<sub>2</sub>排出量が実質ゼロとなる国内初のサービスを2024年4月に開始
- 10月に対象を九州新幹線エリアへ延伸
- サービスの導入企業は新たに12社増え、計13社となった
- サービス名称を「GreenEX」に決定



※当社HPより抜粋

○ 脱炭素社会への移行に向けたニーズを捉え、収益の拡大に繋げていく





**コートヤード・バイ・マリオット京都駅**

2026年度開業（予定）・全270室



**コートヤード・バイ・マリオット京都四条烏丸**

2025年夏開業（予定）・全125室（予定）



**奈良県中小企業会館跡地ホテル計画**

開業時期・客室数は決まり次第お知らせ

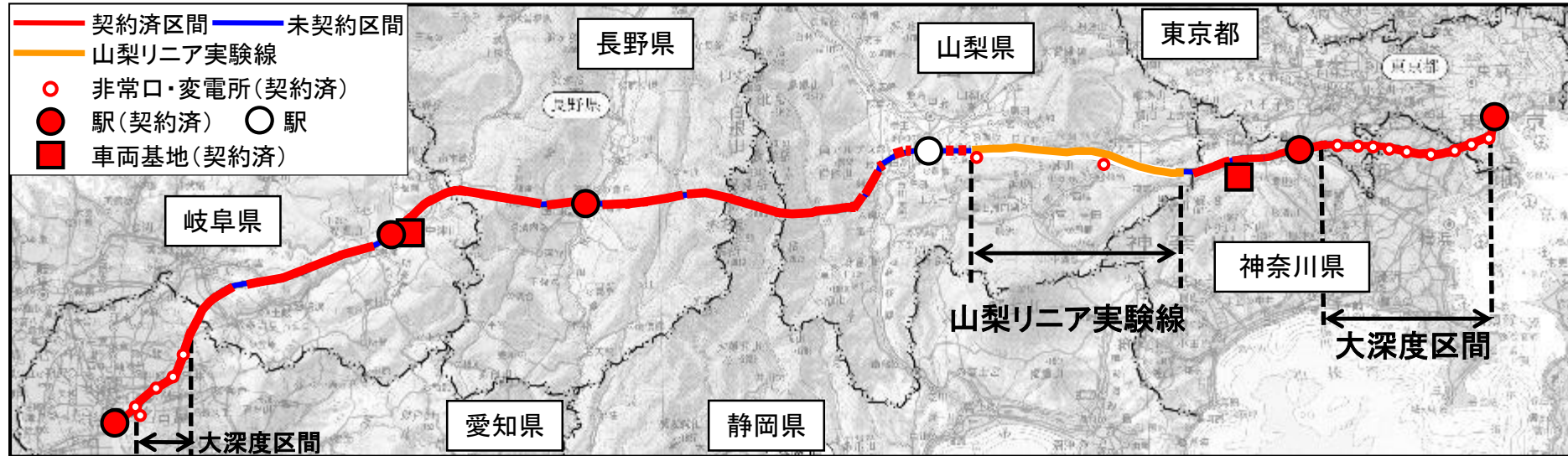
- 日本有数の観光地である京都・奈良においてホテル開発を実施
- グループ事業と鉄道事業の相乗効果を追求し、沿線都市と移動の価値向上を図る



## 【本体工事契約箇所 (2024.9.30現在)】

※本体工事契約区間等は概ねの位置を示したものです。

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の100万分の1日本を複製したものです。(承認番号 平25情複、第310号)



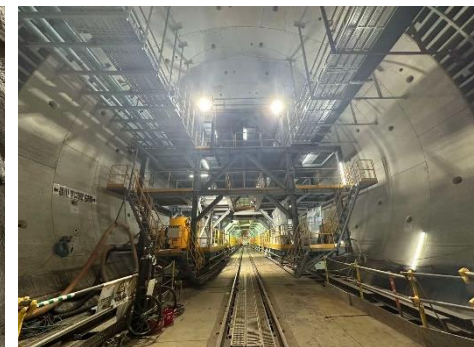
名古屋駅  
(中央東工区)  
地中連壁工 (掘削)



岐阜県駅 (仮称)  
回送線橋脚工



南アルプストネル  
(長野工区)  
先進坑貫通  
(除山非常口～釜沢非常口)



第一首都圏トンネル  
(東百合丘工区)  
本格的な掘進

## 【南アルプストンネル 静岡工区】

### 《大井川の水資源及び南アルプスの生態系等の環境保全に関する取組み》

- 水資源と環境保全に関する国土交通省の有識者会議の報告書に基づいて、静岡県等と対話を重ねています。
- 9月17日に静岡県内の高速長尺先進ボーリング調査実施についての大井川利水関係協議会の了解文書を受領しました。
- 10月5日に静岡県の鈴木知事、山梨県の長崎知事が山梨工区の高速長尺先進ボーリング調査の状況を視察しました。

### 《リニア中央新幹線静岡工区モニタリング会議》

- 8月22日に開催された第4回「リニア中央新幹線静岡工区モニタリング会議」において、静岡県との対話状況を報告しました。



鈴木静岡県知事、長崎山梨県知事による  
高速長尺先進ボーリング調査の現地視察

## 【大深度区間のシールドトンネル工事】

- 既に本格的な掘進を進めている第一首都圏トンネル梶ヶ谷工区に続き、9月24日に第一首都圏トンネル東百合丘工区において本格的な掘進を開始しました。
- 第一中京圏トンネル坂下西工区においては、調査掘進の範囲の掘進を完了しました。



第一首都圏トンネル（梶ヶ谷工区）  
本格的な掘進

本資料に記載されている将来の計画や見込み数値等は、当社が現在入手可能な情報に基づく見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。潜在的なリスクや不確実性の例としては、経済動向や事業環境、消費動向、当社および子会社における他社との競合状況、法律や規制等の変更等が挙げられます。

# (参考) 令和6年度第2四半期 (中間期) セグメント情報

## 【実績】

	令和5年度 中間期 実績 A	令和6年度 中間期 実績 B	対前年実績	
			増減 B-A	比率 B/A
<b>営業収益</b>	<b>8,175</b>	<b>8,738</b>	<b>563</b>	<b>106.9</b>
運輸業	6,716	7,194	477	107.1
流通業	772	827	54	107.1
不動産業	411	419	7	101.9
その他	1,102	1,147	44	104.1
調整額	△ 827	△ 849	△ 21	102.6
<b>セグメント利益 (営業利益)</b>	<b>3,120</b>	<b>3,652</b>	<b>531</b>	<b>117.0</b>
運輸業	2,898	3,411	513	117.7
流通業	58	75	16	128.5
不動産業	120	124	3	103.2
その他	47	42	△ 4	89.7
調整額	△ 3	△ 2	1	53.4

## 【通期の業績予想】

(単位 億円、%)

	令和6年度 通期業績予想 (前回) C	令和6年度 通期業績予想 (今回) D	対前回予想	
			増減 D-C	比率 D/C
	<b>17,400</b>	<b>17,620</b>	<b>220</b>	<b>101.3</b>
運輸業	14,340	14,470	130	100.9
流通業	1,620	1,680	60	103.7
不動産業	840	850	10	101.2
その他	2,560	2,630	70	102.7
調整額	△ 1,960	△ 2,010	△ 50	102.6
	<b>6,080</b>	<b>6,240</b>	<b>160</b>	<b>102.6</b>
運輸業	5,660	5,790	130	102.3
流通業	130	140	10	107.7
不動産業	210	210	-	100.0
その他	100	120	20	120.0
調整額	△ 20	△ 20	-	100.0

(注) 1. セグメント別の営業収益は、外部顧客への売上高のほか、他セグメントへの売上高を含む

2. 「調整額」欄は、セグメント間取引の相殺消去



# (参考) 主な子会社の実績・業績予想 (連結修正前)

## ○実績

(億円)

	営業収益			営業利益			経常利益		
	2023年度 2Q実績	2024年度 2Q実績	前期比	2023年度 2Q実績	2024年度 2Q実績	前期比	2023年度 2Q実績	2024年度 2Q実績	前期比
JR東海高島屋	265	308	116.5%	25	45	178.6%	26	46	177.4%
JRセントラルビル	163	165	101.5%	20	20	100.6%	20	20	101.2%
JR東海ホテルズ <sup>®</sup>	120	133	110.7%	8	10	116.7%	8	10	121.2%
日本車両	411	444	108.1%	27	29	106.7%	29	31	108.2%
				日本車両	中間純利益		20	27	133.0%

## ○業績予想

(億円)

	営業収益				営業利益				経常利益			
	2023 年度 実績	2024 年度 計画 (前回)	2024 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回	2023 年度 実績	2024 年度 計画 (前回)	2024 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回	2023 年度 実績	2024 年度 計画 (前回)	2024 年度 計画 (今回)	前回 vs. 今回
JR東海高島屋	571	571	628	109.9%	66	67	84	125.6%	69	69	87	125.8%
JRセントラルビル	329	332	340	102.7%	31	29	33	114.7%	31	28	33	116.2%
JR東海ホテルズ <sup>®</sup>	260	261	274	104.9%	24	14	17	120.5%	24	14	17	125.5%
日本車両	866	900	900	100.0%	57	53	53	100.0%	59	55	55	100.0%
					日本車両	当期純利益			51	48	48	100.0%



# (参考) 輸送量の推移 (月次利用状況・多客期利用状況)

## ◆月次利用状況 Monthly passenger volume

(%)

期間 Period	新幹線 Shinkansen						在来線 Conventional Railway		
	東京口 Tokyo Gate					大阪口 Osaka Gate	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area	
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	平日 Weekdays	土休日 Weekends			合計 Total
24/04	109 (94)	114 (99)	97 (84)	105 (85)	110 (90)	109 (102)	109 (96)	105 (89)	105 (94)
24/05	106 (98)	108 (102)	98 (90)	103 (90)	109 (94)	102 (105)	105 (100)	99 (89)	106 (93)
24/06	109 (96)	113 (102)	96 (86)	105 (87)	109 (93)	106 (104)	109 (100)	103 (88)	101 (91)
24/04-06	108 (96)	112 (101)	97 (87)	104 (87)	110 (92)	104 (103)	107 (99)	102 (89)	104 (93)
24/07	102 (94)	106 (98)	89 (84)	104 (89)	102 (89)	105 (106)	103 (98)	101 (118)	105 (96)
24/08	95 (83)	97 (87)	90 (78)	91 (76)	94 (79)	94 (92)	96 (86)	100 (89)	100 (86)
24/09	104 (97)	107 (102)	93 (87)	100 (88)	106 (93)	99 (105)	104 (99)	100 (98)	101 (97)
24/07-09	100 (91)	103 (95)	91 (83)	98 (84)	100 (86)	99 (102)	101 (94)	100 (100)	102 (93)
24/04-09	104 (93)	107 (98)	94 (85)	101 (86)	105 (89)	102 (102)	104 (96)	101 (94)	103 (93)

## ◆多客期利用状況 (東京口) Passenger volume during the peak holiday seasons (Tokyo Gate)

- ・ゴールデンウィーク "Golden Week" Holidays

期間 Period	新幹線 Shinkansen				在来線 Conventional Railway	
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area
4/26~5/6	102 (99)	101 (100)	106 (100)	101 (93)	98 (84)	107 (95)

- ・お盆期間 Summer Holidays

期間 Period	新幹線 Shinkansen				在来線 Conventional Railway	
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area
8/9~8/18	107 (93)	108 (95)	113 (93)	97 (79)	102 (81)	115 (93)

(※1) カッコ内は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の2018年度との比較。

Note1: Numbers in parentheses are compared to FY2018 (before the decline due to the COVID-19 pandemic).

(※2) 新幹線・在来線特急等は特定の駅間における月累計断面輸送量の対前年比。

在来線名古屋近郊は自動改札集計による乗車人員合計の対前年比。※多客期においては定期外の乗車人員に限る。

Note2: The data of the Shinkansen and Express is based on the total passenger volume of each month at certain points.

The data of the Nagoya area is based on the passenger ridership of each month counted by automatic ticket gates.

※The data of the Nagoya area regarding the peak holiday seasons is based on the passenger ridership excluding commuter passes.

# (参考) 月次営業概況 (商業施設・ホテル)

## ◆商業施設

### Commercial Facilities

ジェイアール名古屋タカシマヤ、及び タカシマヤ ゲートタワーモール  JR Nagoya Takashimaya and Takashimaya Gate Tower Mall		
期間 Period	売上高合計 2025年2月期 (百万円)  Total Sales FY2024: 2024.3~2025.2 (Millions of Yen)	前年同月比 (%)  YoY Comparison
24/03	19,158	113.9
24/04	16,311	113.9
24/05	17,393	119.6
24/06	18,327	126.6
24/07	17,621	113.6
24/08	14,357	108.3
24/09	16,167	107.0

## ◆ホテル

### Hotels

名古屋マリオットアソシアホテル Nagoya Marriott Associa Hotel		名古屋JRゲートタワーホテル Nagoya JR Gate Tower Hotel (※)		
期間 Period	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.
(Blank header row for Hotel data)				
24/04	79.5	6.8	84.1	-0.6
24/05	77.4	6.0	81.0	-0.3
24/06	76.2	3.9	86.6	3.8
24/07	79.0	9.5	87.9	2.5
24/08	72.4	-3.6	75.1	-12.9
24/09	73.4	-3.9	73.6	-11.9

(※) 各月の数値は速報値のため、確定値とは異なる場合がある。

Note: The number for each month comes from a quick estimation, which might differ from the actual results.